陰囊に生じた基底細胞癌

陰囊に生じた大型な基底細胞癌

半田 芳浩^{*1} 山中 直樹^{*2}

A case of large basal cell carcinoma on the scrotum

Yoshihiro HANDA ^{*1}, Naoki YAMANAKA ^{*2}

^{*1} Department of Dermatology, Nagoya University Graduate School of Medicine

^{*2} Division of Dermatology, Tokoname Municipal Hospital

Basal cell carcinoma (BCC) possibly occurs anywhere on the skin, and the favourite localization is exposed areas such as the face and neck. We have experienced a rare case of large BCC on the left upper part of the scrotum.

A 76-year-old male had noticed a black-gray nodule on his scrotum about 8 months before visiting Tokoname municipal hospital. The tumor was firm, triangular-shaped with each side 45, 45 and 35 mm in length. Erosion and ulceration were seen in the lesion. The tumor was totally excised with a 5 mm margin under local anesthesia. The histopathological diagnosis was typical, solid BCC. Since the excision, neither recurrence nor metastasis of the tumor has been observed. [*Skin Cancer (Japan)* 2002 ; 17 : 197-200]

Key words : Basal cell carcinoma, External genitalia, Scrotum

はじめに

基底細胞癌 (Basal Cell Carcinoma : BCC) は 8 割以上が頭頸部に発生し、躯幹、四肢、陰股部の順に少ない¹⁾。

今回我々は発生頻度の低い陰囊に生じた比較的大型な BCC を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

症 例

患 者 : 76 歳, 男性

初 診 : 2001 年 12 月 18 日

主 訴 : 陰囊の灰黒色皮疹

家族歴 : 母が胆嚢癌で死亡。

既往歴 : 46 歳時に胃潰瘍にて胃切除, 73 歳時に胆石にて胆嚢摘出。

現病歴 : 約 8 ヶ月前より陰囊の左側上部に黒色丘疹が出現した。徐々に拡大し、時に滲出液を認めるようになった。市販の傷薬を外用していたが改善しないため、常滑市民病院を受診した。掻痒感や痛みはなかった。

^{*1} 名古屋大学大学院医学研究科皮膚病態学分野

^{*2} 常滑市民病院皮膚科

現 症：陰囊の左側上部から陰茎基部にかけて弾性硬，辺縁不整，境界は下部が一部不明瞭な三角形の灰黒色局面を認めた。この三角形は各辺が45，45，35mmであった。局面内には様々な大きさの黒～灰色丘疹，糜爛や潰瘍を認めた（図1）。

病理組織学的所見：腫瘍胞巣の一部は表皮と連続しており，島状に真皮内に増殖していた（図2）。腫瘍胞巣の中心部には壊死巣を認めるものもあり，メラニン色素が豊富に存在した。腫瘍細胞は，小型の毛芽細胞様細胞で腫瘍胞巣

図1. 陰囊左側上部から陰茎基部にかけて，辺縁不整な三角形の灰黒色局面を認める

図2. 病理組織像
腫瘍胞巣は一部で表皮と連続し，真皮に増殖している

の辺縁部は核が柵状に配列し，胞巣と間質の間には裂隙の形成をみた（図3）。

診 断：臨床型は結節潰瘍型，組織型は充実型のBCCと診断した。

治療および経過：局所麻酔下にて腫瘍辺縁から5mm離して肉様膜で切除した。その後現在まで再発をみない。

考 案

常滑市民病院での過去約6年間のBCCと診断された症例は27症例，31病変で，外陰部発生例は2例あり，いずれも陰囊に生じていた²⁾。全国での外陰部における発生率を検討するために，25施設^{3)～28)}における統計を集計した（表1）。これらの報告では病変数による集計と症例数による集計と報告により異なるものの，男女を問わないBCC症例中の外陰部発生の割合は0～6.5%の間に分布する。これら24施設の症例を総計すると2935例であり，そのうちの外陰部発生の総数は65例（2.2%）であった。また男性症例中の外陰部発生の割合が明らかな12施設の統計では0～15.4%の間に分布し，男性症例の総計440例中，外陰部発生の総数は14例（3.2%）と，外陰部に発生することは稀であった（この計算に際し，病変数と症例数の双方での割合がわかるものは病変数を使用した）。両者

図3. 病理組織像（強拡大）
腫瘍胞巣は一層の柵状に配列した細胞で取り囲まれ，その外側に裂隙形成をみる

表1. 本邦における施設別の外陰部に生じた基底細胞癌の割合

施設名	集計期間	全症例中の外陰部発生の割合	男性症例中の外陰部発生の割合	文献
東京大学	1951～1971年	1/113 (0.9%)	1/58 (1.7%)	3)
熊本大学	1962～1977年3月	0/104		4)
九州大学	1906～1980年	0/128		5)
山口大学	1963年4月～1982年12月	1/164 (0.6%)		6)
横浜国立大学*	1973年1月～1982年12月	3/78 (3.8%)	1/44 (2.3%)	7)
慶応義塾大学*	1975年4月～1983年3月	0/79	0/38	8)
兵庫医科大学*	1977～1985年	3/65 (4.6%)	0/32	9)
山形大学*	1976年10月～1986年12月	0/56	0/22	10)
東京女子医科大学	1974～1987年	3/54 (5.6%)	2/32 (6.3%)	11)
産業医科大学	1979年7月～1988年3月	0/86	0/44	12)
東京医科歯科大学	1959～1987年	4/99 (4.0%)	4/56 (7.1%)	13),14)
昭和大学	1962～1989年	4/113 (3.5%)	4/58 (6.9%)	15)
久留米大学	1976～1989年	3/239 (1.3%)		16)
日本医科大学第1病院*	1970～1989年	2/62 (3.2%)		17)
島根医科大学	1980～1989年7月	0/28	0/17	18)
長崎大学*	1978～1990年	2/204 (1.0%)		19)
日本医科大学第2病院	1984～1994年	2/53 (3.8%)	0/26	20)
筑波大学	過去19年間	4/145 (2.8%)		21)
大垣市民病院	過去10年間	(3.8%)		22)
日本医科大学	1985年1月～1996年12月	1/108 (0.9%)		23)
東京女子医科大学*	1989～1998年	5/101 (5.0%)		24)
旭川医科大学および関連施設	1978年6月～1998年5月	11/253 (4.3%)		25)
千葉大学	1981年～1995年6月	6/373 (1.6%)		26)
大阪医科大学	1991年1月～2000年12月	4/76 (5.3%)		27)
東京慈恵会医科大学柏病院*	1990～2001年	4/123(3.3%)		28)
常滑市民病院	1995年11月～2002年5月	2/31 (6.5%)	2/13 (15.4%)	自験例
総計		65/2935 (2.2%)	14/440 (3.2%)	

*集計が症例数、他は病変数

とも常滑市民病院での外陰部 BCC の発生率が最も高かったが、これは今回の集計期間内では本症例以降 BCC の症例が 1 例しかなかったため、これから集計期間が延長され、新たな症例が蓄積されれば徐々に低下してゆくと思われる。

BCC の発生に関して、好発部位である顔面で胎性期に癒着する顔裂線に相当する部位に好発することから、過誤腫的な性格が指摘されている。外陰部では男性は陰囊、女性は大陰唇に好発するが、これらは発生学的に相同器官である²⁴⁾。顔面の場合と同様に、外陰部の BCC も陰唇陰囊縫線の癒合との関連が推測されている²⁹⁾。

陰囊部の BCC は、1970 年以降、本邦では自験例を含めて 52 例が報告されている^{2)15)28)30)～32)}。筆者らは以前に 1990 年以降の 19 例を集計して報告した²⁾。それらの特徴は①好発年齢は 65 歳以上、②発症から初診までの期間は約 5 年以内、③好発部位は陰囊左側、④大きさは長径 20mm

以下、⑤臨床像は結節型ないしは結節潰瘍型で、色調は黒～褐色調、⑥自覚症状はない、⑦組織型は充実型、⑧再発は認めず、予後はよい、であった。これらの特徴は③を除けば、他部位も含めた BCC 全体の特徴と差異はなかった。自験例は三角形状で最長辺が 45mm と、1970 年以降に報告された症例で数値の記載のあった 31 例中、3 番目に大きな病変であったが、自験例において大型化した理由は不明であった。その他は上記の特徴に当てはまっていた。

陰囊を含め、外陰部に BCC が生じることは稀であるが、外陰部に発生する腫瘍の鑑別疾患として念頭におく必要がある。

本症例は第 18 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(2002 年 6 月、米子)にて報告した。

文 献

- 1) 大塚壽, 渡部隆博: 基底細胞上皮腫 (癌) の診断と治療. *Skin Cancer*, 8 Special Issue : 209-216, 1993
- 2) 半田芳浩, 荒木美好: 陰囊に発生した基底細胞癌. *臨皮*, 56:457-460, 2002
- 3) 今井清治: 皮膚癌および悪性黒色腫の統計的観察. *日皮会誌*, 83:407-429, 1973
- 4) 小野友道: 基底細胞上皮腫の臨床病理学ならびに電顕的研究 第1報: 基底細胞上皮腫の病理発生要因に関する検討. *日皮会誌*, 89:251-261, 1979
- 5) 今山修平, 永江祥之介: 九大皮膚科 75 年間の悪性腫瘍の統計. *西日皮膚*, 43(増):974-983, 1981
- 6) 山田健一: 基底細胞上皮腫の臨床的, 組織計測学的研究 (第1報) —最近 20 年間における教室例の臨床的, 統計的検討—. *西日皮膚*, 46(増):115-118, 1984
- 7) 小清水満, 内山光明: 横浜市立大学皮膚科における 10 年間の上皮系腫瘍の統計的観察—特に基底細胞癌と有棘細胞癌について—. *皮膚臨床*, 26:1213-1219, 1984
- 8) 川村いづみ, 桜岡浩一, 木花光, 他: 斑状鞏皮症型基底細胞上皮腫の 1 例—過去 8 年間の教室経験例の集計を含めて—. *臨皮*, 39:69-73, 1985
- 9) 東野清彦, 相模成一郎: 基底細胞上皮腫の統計的観察. *皮膚*, 29:802-804, 1987
- 10) 麻生和雄, 近藤慈夫, 佐藤紀嗣, 他: 山形大学皮膚科教室の開院後 10 年間の外来新患統計. *西日皮膚*, 50:112-118, 1988
- 11) 森田久美, 川島真, 肥田野信: 外陰部の基底細胞上皮腫の 3 例. *皮膚臨床*, 30:1025-1030, 1988
- 12) 桐原義信, 山元修, 堀江昭夫, 他: 基底細胞上皮腫 90 例の統計的観察. *西日皮膚*, 50:1096-1099, 1988
- 13) 山口潤, 儘田晃, 近藤靖児, 他: 陰囊に生じた基底細胞上皮腫の 1 例. *皮膚臨床*, 31:1568-1569, 1989
- 14) 山口潤, 滝野長平: 比較的なる部位に生じた基底細胞上皮腫の 2 例. *皮膚紀要*, 86:319-322, 1991
- 15) 秋山正基: 基底細胞上皮腫 (BCE). *皮膚病診療*, 12:581-584, 1990
- 16) 辛島正志, 熊野修治, 津田眞五, 他: 外陰部に生じた Pinkus 型 Basal Cell Epithelioma (BCE). *西日皮膚*, 52:942-945, 1990
- 17) 浅倉廣行, 西原潔, 三神寛, 他: 陰部基底細胞上皮腫の 2 例. *皮膚臨床*, 33:1771-1773, 1991
- 18) 今岡千治, 出来尾哲, 地土井襄璽: 手背に生じた基底細胞上皮腫の 1 例. *皮膚臨床*, 33:1800-1801, 1991
- 19) 小出隆, 矢野光政, 田中敬一, 他: 外陰部に発生した基底細胞上皮腫の 1 例—長崎大学皮膚科における過去 13 年間の BCE の部位別統計—. *西日皮膚*, 53:1320, 1991
- 20) 小林伸子, 津田晃男, 遠藤祐理子, 他: 外陰部基底細胞上皮腫の 2 例と当科における基底細胞上皮腫の統計. *Skin Cancer*, 9:387-391, 1994
- 21) 川内康弘, 小笠原理雄, 高橋久恵, 他: 外陰部に生じた基底細胞腫の 1 例: 当科における基底細胞腫のまとめ. *西日皮膚*, 59:313, 1997
- 22) 野尻麻里: 外陰部に生じた基底細胞腫の 3 例. *日皮会誌*, 107:804, 1997
- 23) 東直行, 二神綾子, 新見やよい, 他: 基底細胞癌の 1 例—当科における基底細胞癌の統計—. *Skin Cancer*, 12:357-361, 1997
- 24) 門野さつき, 上田周, 石橋睦子, 他: 外陰部に生じた基底細胞癌. *臨皮*, 53:785-787, 1999
- 25) 柏木孝之, 和田隆, 浅野一弘, 他: 両腋窩に生じた基底細胞癌 旭川医科大学皮膚科およびその関連施設における基底細胞癌の集計. *臨皮*, 55:1001-1004, 2001
- 26) 藤田優, 落合泰明, 川瀬健二: 前腕に生じた基底細胞上皮腫の 3 例. *Skin Cancer*, 17:44-47, 2002
- 27) 落合宏司, 東耕一郎, 草壁秀成, 他: 当科における基底細胞癌の統計的検討. *Skin Cancer*, 17:48-50, 2002
- 28) 堀和彦, 大森一範, 新村真人: 陰囊に生じた基底細胞癌の 2 例. *日皮会誌*, 112:1029-1030, 2002
- 29) 藤田悦子, 湧川基史, 足立真, 他: 外陰部に生じた基底細胞癌の 1 例—外陰部基底細胞癌の発生についての一考察—. *皮膚臨床*, 42:459-462, 2000
- 30) 弟子丸有美, 佐藤良博, 河原由恵, 他: 陰囊に生じた基底細胞上皮腫の 1 例. *日皮会誌*, 112:60, 2002
- 31) 木下涼子, 村田宏爾, 安田 浩, 他: 転移を認めた陰囊部基底細胞癌の一例. 第 18 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会プログラム・抄録集: 97, 2002
- 32) 渡辺愛子, 土居敏明, 西井芳夫, 他: MDS 患者の陰囊に生じた広基状隆起性の基底細胞癌の 1 例. *皮膚の科学*, 1:247-248, 2002